

## **9月19日、「北海道支部との懇話会」を開催**

～本部から高木理事長他5名、北海道支部から阿部支部長他15名が出席して懇談～

当組合は、これまで本部と支部の交流・情報交換の場として、①毎年開催される支部総会（東京、東海、大阪、九州）に理事長が出席し、地元の支部組合員との懇談を通し、本支部間の交流を深めるとともに、②毎年1月、新年賀詞交歓会の開催日に合わせて、『全国支部長・委員長会』を開催。理事長、9支部長、3委員長が出席して、報告・連絡案件のほか各種議案に関する検討を行うなど、交流事業を実施してきている。

平成22年度より、上記2事業に加え、新たに4支部以外の支部組合員とも交流や情報交換を図るために、『本支部懇話会』を随時実施している。

これまでの開催経過は以下の通り。

第1回／北海道支部との懇話会	22年	7月15日	札幌
第2回／新潟支部との懇話会	22年	11月17日	新潟
第3回／神姫支部との懇話会	23年	4月8日	姫路
第4回／北海道支部との懇談	23年	8月2日	札幌
第5回／北海道支部との懇談	24年	8月28日	札幌

今回は懇話会の第6回目として、去る9月19日（木）、北海道支部組合員との情報交換会を札幌市で開催した。

本部からは、高木理事長、酒匂副理事長・市場委員長、笹田理事・総務委員長、臼井品質保証分科会主査、事務局が出席、北海道支部からは、阿部支部長（阿部鋼材(株)社長）、上遠野・(株)産鋼スチール社長、西村・玉造(株)社長、佐藤・(株)マルキンサトー社長ほか15名が出席し、情報交換が行われた。

会議は、(株)産鋼スチール・上遠野社長の司会により、議事が進行された。

最初に阿部支部長より、「本支部懇話会は、今年で6回目を数えるが、うち北海道開催は4回目となる。本会は回を重ねるごとに充実してきており、これは高木理事長の熱意の賜物であると感謝申し上げる次第である。当地区の厚板需要は足元堅調に推移しているが、価格面を含めた業況全体でみると依然厳しい状況に変わりはない。本日は、ご多忙の中理事長はじめ本部役員にご来道いただいております。この機会に本支部間の相互交流と情報共有化を図り、今後の経営の糧にしたいと思う。」との挨拶が行われた。

引続き、高木理事長より、「毎年阿部支部長、上遠野社長をはじめ各社の皆様のご協力のもとで、本会を開催できることに役員一同心より感謝申し上げたい。昨日(18日)

東京で、組合役員と鉄鋼課長との懇談会を実施し、足元のシャー業の状況に関し報告した。景気回復の足取りがはっきりしてきたことにより、シャーの需要環境もかなり好転していることが実感として捉えられるようになった。数か月前までは首都圏と地方の景況感に格差があったが、ここへきて今まで悪かった地区が回復し、格差がなくなって来た。7月頃から様変わりしている。都市圏から地方へ、大手から中小へと需要がしみ出てきている。色模様が変わってきている。内需は下期に向け堅調に推移するとみられ、この地合いを大事にしてほしい。花を咲かせるのは来年とみているが、無用な爪を伸ばすことなく手堅い経営に努めるべきだ。仕事は出てきた。次は収益改善が急務だ。どれだけ付加価値を出せるかが勝負所。短納期・小ロット取引は今後も続く。単重は5年前は約120kgだったが、今は半分の60kgまで落ちている。トン換算取引なので非常に厳しいが、こうした中で収益率をいかに上げるかに知恵を投入していかないと、この窮状は打破できない。当組合では、その一方策として、過去4年間、「建築用鋼材の品質証明ガイドライン」の普及促進事業を展開してきた。今年は品質保証分科会のもとで、永年続く不合理な商取引の是正のための検討に取り組んでいる。後ほど臼井主査より報告いただくが、今後も組合の重点事業の一つに据え、取り組んで行く所存である。皆様のご理解とご協力を引続きお願いしたい。」との挨拶が行われた。

続いて、酒匂副理事長・市場委員長より、「アベノミクス効果もあって、気分的には明るくなってきた。ファブの仕事は、H・Mグレード以下の中小は、来年いっぱい埋まっており、忙しさはずっと続きそうだ。しかし建築材はコラムやH形鋼が主流で切板需要にあまりつながらない状況にある。物件としては、道路では圏央道や外環道、中央環状、非住宅分野では大学、病院、物流センター、ショッピングセンター等が目白押し状態である。これらに加え、メガソーラーや津波避難タワーの件数が急増しているようである。先行きへの需要増期待が強まる中、東京五輪決定でムードはさらに上昇しているが、母材需給の一段のタイト化が懸念されており、今後しばらくの間、この情勢から目が離せない。建機は、鉱山機械の需要が戻ってこないため、全体的には本調子とは言えない。年度後半に入って若干スローダウンするとの見方もあるが、東北復興や災害対策の進捗度合いが鍵を握っているといえるだろう。」との説明があった。

引続き、笹田理事・総務委員長より、「首都圏の建材需要は、今年1～3月期をボトムに、4月以降回復基調にあるが水準は低位のままである。民間投資の活性化に期待したい。24年度の橋梁生産は23万トンと低かったが、25年度は25万トン程度が見込まれ、内容的にも設計図付の国交省案件のウエイトが上昇しており、切板需要への即効性が期待できる。Sファブは下期以降フル稼働が見込まれているが、足元の切板生産レベルはかなり低い。リーマンショック前の生産は1万トン～1万2000トンで推移していたが、震災後は7000トン、1～3月期は5000トン、4～6月期7000トンと低位のままである。

そして手間ばかりかかる仕事が多く、潤いの少ない状況が続いている。この間、設備の構えが変わってきている。合理化を重視した結果、人員補充もままならず、設備稼働の上方弾力性が著しく低下している。需要が増えるのは良いが、そのあとの対応をどうするのかについて、苦慮している。①人手の問題、②設備能力不足、③母材不足・タイト化、などシャアの抱える課題は山積している。」との説明が行われた。

次に、玉造(株)西村卓也常務取締役より、「北海道地区の鉄骨需要量は、21年度をピークに漸減傾向を辿ったが、24年度以降下げ止まりの状況が見えてきた。今年3～4月にはタイト化して、材料アップの可能性が台頭したものの、メーカーがどんどん安値受注した結果、価格是正の機会が遠のいた。しかし7月に入り、物件が本格的に動き始めて、在庫に穴が空く状況が現出している。今後は、①大型建築案件がスケジュール通り進捗するかどうか。②母材値上げ分をユーザーにどう転嫁させるかが問題である。来年度の鉄骨需要はさらに増加すると見込まれており、選別受注しながら適正利潤の確保に取り組んでまいりたい。公共工事も再び復活した案件もあり、回復を期待したい。足元マーケットでは材料不足が表面化しつつあり、厚板の仲間相場は上昇している。シャリング業界は、永年ゼネコンやファブの従属的立場にたたされてきたが、もっと誇りを持ち、不合理な商取引の是正・改善に力を注いでいくことが必須であると痛感している。」との報告があった。

最後に、臼井品質保証分科会主査より、概要以下の報告があった。

昨年11月に第1回品質保証分科会（当地区からは上遠野社長が委員参加）を開催、以降計6回にわたり、「建築構造用鋼材の品質証明ガイドライン」（2009年11月作成）の普及並びに不合理な商慣習の是正に向けた検討を実施してきた。またこの間、中小企業庁関連団体、鉄鋼課、公正取引委員会等にヒヤリングを行った。当業界が直面する最優先課題は、実取引上で生ずる諸々の増費用をお客様にどう請求するかである。これを適切に実行するためには、法律やガイドラインではどのように規定されているのか。運用指針や事例をいろいろ調査した。その過程で明らかになったことは、①残材は、シャアが母材を買っているので、費用はお客に払ってもらわなければならない（公取委、中取協）、②国交省では局長名で、「原価以下の価格で取引してはならない」との通達を出し、徹底化を図る動きがある。背景には、建設業に携わる従業者数の激減（670万人から480万へ、2/3に減少）や高齢化、低賃金に対する危機感がある。また、共同歩調をとるため、鉄建協や全構協とも連携しながら進めている。とくに全構協では取引改善運動を重点事業の一つに据えて取り組んでいる。当組合の今後の活動は、①基本契約書、鋼材発注書・請書の原案の最終確認、②算定方式（組合推奨案）に関し、公取委のお墨付きをもらう。③周知徹底活動、等を行う予定である。

なお席上出された主な意見は以下のとおりである。

- 品質証明ガイドラインに関する改善項目は、相手にばかり要求しないで、組合員にも守るべきルール作成して徹底するべき。ファブの川上に立つゼネコンや設計会社が理解するかどうかのポイントになる。そのためにも強力な後ろ盾がほしい。
- 材料費は施主が払っており、施主の所有物ではないか。中間段階でそれを施工業者が搾取しているのではないか。
- 首都圏の材料は円滑に回っているのか。歯抜けは出ていないか。
- 内需は当面堅調に推移すると見込まれるが、消費税導入の影響はいかん。

『北海道支部との懇話会』の開催概要は下記の通り。

- ・日 時 平成25年9月19日(木) 15時30分～18時
- ・場 所 札幌東急イン
- ・出席者

【本 部】

高木理事長、酒匂副理事長・市場委員長、笹田理事・総務委員長、  
臼井品質保証分科会主査(東京支部技術委員長)  
柘野(事務局)

【北海道支部】

阿部支部長  
阿部専務、高砂常務、松岡部長(阿部鋼材株)、  
上遠野社長、関部長、福田課長、三塚係長(株産鋼スチール)、  
西村社長、西村常務、太田部長(玉造株)、  
佐藤社長、佐藤取締役、日置課長代理、中木係長(株マルキンサトー)

以 上